知能プログラミング演習 I

第1回: Python 入門

梅津 佑太

2号館 404A: umezu.yuta@nitech.ac.jp

この講義について

講義の目的

- フリーの言語 python を使って深層学習の基礎を学ぶ
- 実際に自分で手を動かしてアルゴリズムを習得する
- 講義ノート (工事中) は Moodle で随時更新します

成績評価

● 出席 (必須)+レポート (100%)

オフィスアワー (要事前連絡)

● 梅津 (2 号館 404A): umezu.yuta@nitech.ac.jp

講義内容(予定)

シラバスから若干の修正があります

- 1. python 入門
- 2. 3層ニューラルネットワーク
- 3. 深層ニューラルネットワーク
- 4. オートエンコーダー
- 5. リカレントニューラルネットワーク
- 6. たたみ込みニューラルネットワーク |
- 7. たたみ込みニューラルネットワーク ||
- 8. 発展的な話題

今日の講義内容

- 1. python の使い方
- 2. パーセプトロンの学習

python の起動と終了

ターミナルを起動し、python または ipython を実行することで利用可能。

✓ バージョンも含めて起動する場合は python3 を実行する

ファイルをターミナルから実行する場合。

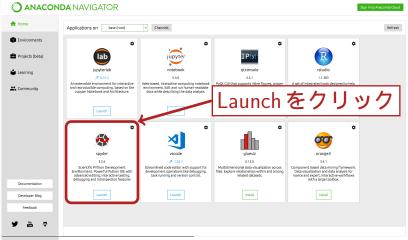
python (ファイル名).py

などとすれば良い.

• python を終了する場合は quit() または exit() を実行

自前の PC で python を利用する場合

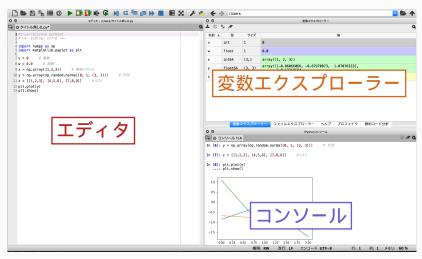
- Anaconda を自前の PC にインストールするのが便利で良い¹
- Anaconda, spyder の順に起動し python を立ち上げる



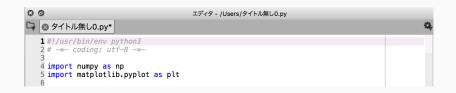
¹CSE 環境ではこのスライドと次のスライドの内容は使えないので注意

spyder

- エディタでアルゴリズムを作成 → コンソールで実行
- 定義済みの変数は変数エクスプローラーで表示される



numpy と matplotlib



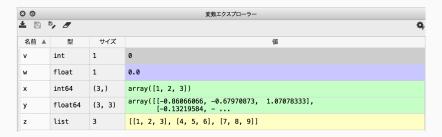
- numpy: ベクトルや行列演算のための数値計算モジュール
- matplotlib: グラフ描画ライブラリ

python のデータタイプ

数値

$$v=0$$
 #整数 (int), $w=0.0$ #実数 (float)

- ベクトルx = np.array([1, 2, 3]) # 数値ベクトル
- 行列y = np.array(np.random.normal(0, 1, (3, 3))) # 行列
- リスト z = [[1, 2, 3], [4, 5, 6], [7, 8, 9]] # リスト



ベクトル演算Ⅰ

```
In [2]: x = np.array([1, 2, 3], float)
In [3]: x[0]
Out[3]: 1.0
In [4]: x + 0.5
Out[4]: array([1.5, 2.5, 3.5])
In [5]: 2*x # 要素ごとの定数倍
Out[5]: array([2., 4., 6.])
In [6]: x**3 # 要素ごとのべき
Out[6]: array([ 1., 8., 27.])
In [7]: x*x # 要素ごとの積
Out[7]: array([1., 4., 9.])
```

ベクトル演算Ⅱ

```
In [8]: y = np.array([4, 5, 6], float)
In [9]: x + y # 要素ごとの和
Out[9]: array([5., 7., 9.])
In [10]: np.dot(x, y) # 内積
Out[10]: 32.0
In [11]: np.outer(x, y) # 行列積
Out[11]:
array([[ 4., 5., 6.],
      [8., 10., 12.],
      [12., 15., 18.]])
In [12]: np.outer(y, x) # 行列積
Out[12]:
array([[ 4., 8., 12.],
    [ 5., 10., 15.],
      [ 6., 12., 18.]])
```

行列演算

```
In [2]: A = np.random.normal(0, 1, (3,3)) # 3*3行列
In [3]: B = np.random.normal(0, 1, (2,3)) # 2*3行列
In [4]: A
Out [4]:
array([[-0.54402056, -2.25872705, -0.84008799],
      [-0.45872658, -0.65348438, 0.14641837],
      [-1.9583066 . 0.11243239. 1.5944507 ]])
In [5]: A.T # 転置
Out [5]:
array([[-0.54402056. -0.45872658. -1.9583066 ].
      [-2.25872705, -0.65348438, 0.11243239],
      [-0.84008799. 0.14641837. 1.5944507 ]])
In [6]: np.dot(B, A) # 積BA
Out [6]:
array([[-2.68199056, 0.70173615, 2.38960981],
      [-1.84463277, -2.56791097, -0.06458365]])
In [7]: np.dot(A, B) # Aの列数とBの行数が異なるのでエラーが表示される
Traceback (most recent call last):
 File "<ipython-input-7-bb50fe1a139b>", line 1, in <module>
   np.dot(A, B) # Aの列数とBの行数が異なるのでエラーが表示される
ValueError: shapes (3.3) and (2.3) not aligned: 3 (dim 1) != 2 (dim 0)
```

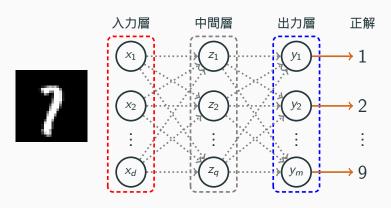
for文とif文

• i = 0, 1, ..., 9 まで順番に足す (x = 0 + 1 + ... + 9)

```
In [1]: x = 0
    ...: for i in range(0, 10):
    ...:    x = x+i
    ...:
    ...:
In [2]: x
Out[2]: 45
```

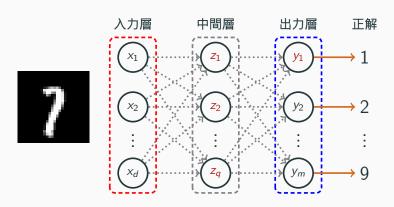
• j が偶数なら y に j/2 を加え、それ以外なら (j+1)/2 を加える

ニューラルネットワーク



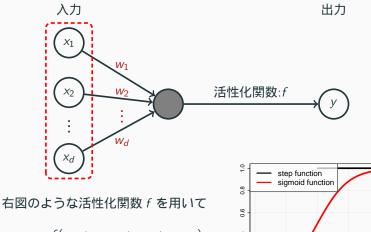
◆ ネットワークから得られた出力を正解と比較してモデルを学習

ニューラルネットワーク



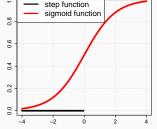
- ◆ ネットワークから得られた出力を正解と比較してモデルを学習
- 各ユニットにつながるネットワークはパーセプトロンと呼ばれる

パーセプトロン



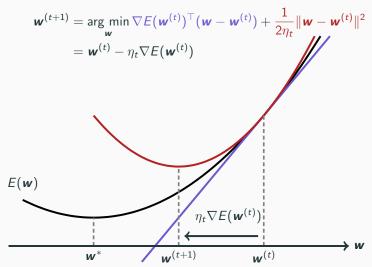
 $y = f(\mathbf{w_0} + \mathbf{w_1}x_1 + \cdots + \mathbf{w_d}x_d)$

によって入力と出力の関係をモデル化し. データから重み w_0, w_1, \ldots, w_d を学習



勾配降下法

ullet 誤差関数 E(w) を最小にする w を求めるためのアルゴリズム



準備: シグモイド関数とその微分

シグモイド関数 ――

$$y = f(\mathbf{w}_0 + \mathbf{w}_1 x_1 + \dots + \mathbf{w}_d x_d) = f(\mathbf{w}^\top \mathbf{x}) = \frac{1}{1 + e^{-\mathbf{w}^\top \mathbf{x}}}$$

• 練習:

$$f(x) = \frac{1}{1 + e^{-x}} \quad \Rightarrow \quad \frac{\mathrm{d}f(x)}{\mathrm{d}x} = \frac{e^{-x}}{(1 + e^{-x})^2} = f(x)(1 - f(x))$$

• シグモイド関数の微分²:

$$\frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}} = \underbrace{\frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}}}_{\text{chigh bounds}} \frac{\partial \mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}}{\partial \mathbf{w}} = f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))\mathbf{x}$$

²偏微分を ▽ で表すこともある

準備: 誤差関数とその微分

- 誤差関数

$$E(\mathbf{w}) = -y \log f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - (1 - y) \log(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))$$

• 誤差関数の微分:

$$\frac{\partial E(w)}{\partial w} = -y \underbrace{\frac{1}{f(w^{\top}x)} \frac{\partial f(w^{\top}x)}{\partial w}}_{\text{ybglighow}} - (1-y) \underbrace{\frac{-1}{1-f(w^{\top}x)} \frac{\partial f(w^{\top}x)}{\partial w}}_{\text{ybglighow}}$$
$$= (f(w^{\top}x) - y)x$$

確率的勾配降下法

- ランダムにデータ {(y_i, x_i)} を並べ替える
- 順番にデータ y, x を読み, 誤差関数

$$E(\mathbf{w}) = -y \log f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - (1 - y) \log(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))$$

を最小にする重み w_0, w_1, \ldots, w_d を確率的勾配降下法で求める

• 適当な初期値 \mathbf{w}^0 から始め, 学習率を η_t として重みを更新 3

確率的勾配降下法

$$oldsymbol{w}^{t+1} = oldsymbol{w}^t - \eta_t \Big(f(oldsymbol{w}^{t op} oldsymbol{x}) - y \Big) oldsymbol{x}$$

 $^{^3}$ 誤差が減少する様子はエポック (データを 1 回スキャンすること) ごとに確認する